

THE KOBECOCO '92 5

MAY No. 373

月刊神戸っ子

神戸っ子 昭和40年1月20日 第三種郵便物認可
1992年5月1日印刷 通巻373号
1992年5月1日発行 毎月1回1日発行



●小磯良平肖像画シリーズ
「着物屋人像」

甘い香りを、大人気分で着る。

女性は、いつまでも可愛くありたいと願うもの。
そんな香りを漂わせて「スイート」な
ファッションが都会に帰ってきました。
大人の表情で、可愛さを着こなして、
いつもと違う「わたし」を楽しんで
今年らしさを演出してみてください。

 **BENIYA**

KOBE OSAKA TOKYO

KOBE

●本店 ●エルベ店 ●ページー店 ●ウイング店
●さんちか店 ●イウ・サンローラン店 ●西神ブレンティ店

OSAKA

●三番街店 ●ナビオ店 ●ミナミ店 ●近鉄店

TOKYO

●銀座店 ●自由ヶ丘店 ●日比谷店



Christian Dior

フローナダイヤモンド・タンザナイト・エローサファイア・K18/デザイン 大島啓生

最初に夏を見つけた、
タンザナイト。

TASAKI
宝石たちの新世界。  **田崎真珠**

この広告のお問い合わせは広報部(神戸TEL.078-232-2431)まで
多彩な機能とサービス、いろいろ。タサキズアソシエーツ会員募集。お問い合わせは営業企画室(東京TEL.03-5561-8843)まで。

江
黒
真
理

萌える緑
青い夢



JEWELRY
タジマ

神戸元町2丁目 TEL.078(331)5761代



阿江小百合さん

福山めぐみさん

伊藤毅さん

伊藤真由美さん

佐藤かおりさん

薫風に祝う

和装コーディネーター 荒川 豊子
 きもの&おしゃれ小物
 神戸市灘区山田町3-2-26 六甲SKビル
 ☎ (078) 822-3337 阪急六甲山側



平野 顕子

ISMを着る

大阪音楽大学音楽学部声楽科卒業、同大学院
歌曲研究室修了、1985、86、88年ウィーン夏
期音楽セミナー及びウィーン国際夏期音楽セ
ミナール修了。1987年、フレッシュ・アー
ティスト・コンサート出演。1989年、学生選抜
オペラ「魔笛」のパミーナ役に出演。以後、
オペラ「賢い女」の賢い女役、オペレッタ「こ
うもり」のアテーレ役で好演。現在、神戸オペ
ラ協会演奏会員。

JR大阪駅店 / 06-346-7621

〒530 大阪市北区梅田3-1-1キヤレ大阪

新神戸店 / 078-222-3637

〒650 神戸市中央区加納町2-1-15

神戸北野店 / 078-222-2818

〒650 神戸市中央区山本通2-9-17

神戸岡本店 / 078-431-1692

〒658 神戸市東灘区岡本1-4-10

苜屋店 / 0797-34-2060

〒659 苜屋市大原町28番1号バルティ苜屋

仁川店 / 0798-51-1972

〒662 西宮市仁川町2-4-13バルティ仁川 F

神戸垂水店 / 078-706-1558

〒655 神戸市垂水区神印町2-9松林ビル1 F

加古川店 / 0794-27-1431

〒675 加古川市加古川町21-8

姫路駅南店 / 0792-22-3351

〒670 姫路市精道町100ホテルゲンガデビル1 F

福岡天神店 / 092-731-5610

〒810 福岡市中央区天神2-7-18

MASON DARTIGAN
ISM GROUP

神戸市中央区布引町1-1-10

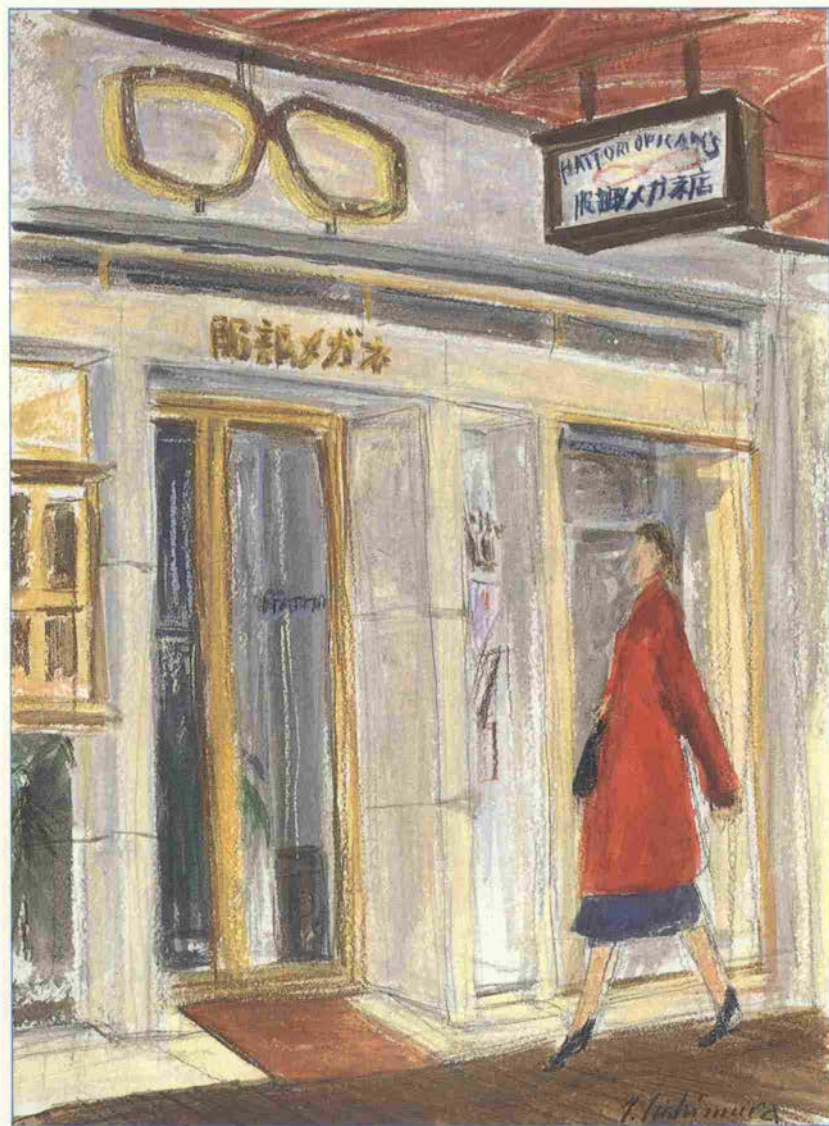
☎(078)222-3641



ジャケット / 35,000円

スカート / 19,000円

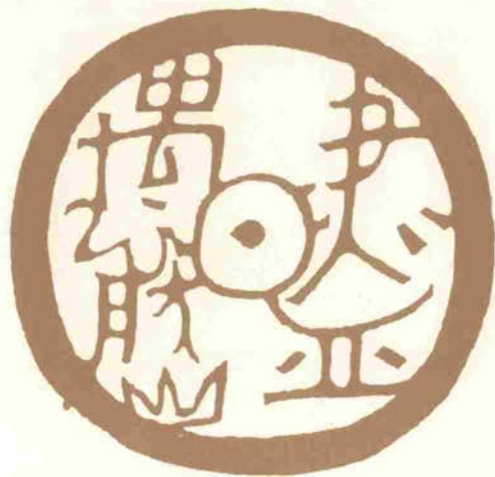
撮影協力 / ハナトレ北野店



Second Cover ● 街の風景 (26)

服部メガネの店 (1992年) 絵／西村 功

無才庵
綿貫宏介空間展



と き: 5/29 (金) ところ: 有馬温泉 御所坊
5/30 (土) 北区有馬町858
5/31 (日) TEL: 078-904-0551

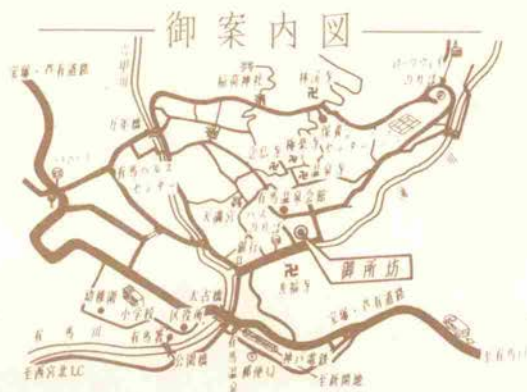
午前11時～午後5時 展示即売会

侘び、寂びの心に表わされる日本的なるものと、西洋文化の出会い。
その独自の感性で絵画、篆刻、陶芸、染、織、デザインと幅広く活躍する
綿貫宏介の世界をご紹介します。

MUHO-AN-SOHEI, INC.



株式會社 無才庵泉家



お車でお越しのお客様には、駐車場をご用意しております。

kansin street gallery <38>

— 神戸を描くシリーズ —
第5回 南 和恵<二期会>



南 和恵さん



“ときめきバンクーかんしん”
は「共感・対話・信頼」を企業
理念として、地域の文化・芸
術の育成に努めております。

この“かんしんストリート
ギャラリー”も芸術の香りをほ
のかに漂わせたいアートスポッ
トとして、本年は、神戸を描
くシリーズと題し、神戸の街
角の風景を描いた作品を紹介
してゆきます。



生田新道に面したストリートギャラリー



関西信用金庫

神戸市中央区下山手通 2丁目12-3 〒650
PHONE (078) 332-5151 (代) Fax (078) 333-9874

幸せにつつまれて



ご婚礼衣裳展示会

日時
会場

7月19日(日)
新神戸オリエンタルホテル
真珠の間

大丸前
つや衣裳店

神戸市中央区三宮町3-1-9 TEL (078) 321-0360代

BRIDAL BOUTIQUE
ASSORTI
アソルティ

BRIDAL BOUTIQUE
bianca sposa
ビアンカスposa

MEN'S COSTUME RENTAL
CHEVALIER
シェヴァリエ

女プロデューサー奮戦す

大西悦子

(TV・映画プロデューサー)カメラ・米田定蔵

昨年末、ドラマ制作の裏側を綴った一冊、タイトルも「女プロデューサー奮戦す」を出版され、売れ行きも好調の大西悦子さん(神戸市出身)。

映画「塀の中の懲りない面々」のプロデューサーを務めた時、映画界では女プロデューサーというのは異色な存在であったこともあり、「本を書いてみるかどうか」という声がかかったのが出版のきっかけだそう。

「番組を制作していくにあたって、常に反省の気持ちを持つためにも、ちよつと「辛口」の本があっても良いのではと思ったのです」と語る大西さん。

仕事上、数十人の個性の強い人間が集まっつての団体作業が大部分なので、それをまとめる役割のプロデューサーという立場は、大変な体力を肉体的にだけでなく、精神的にも必要とするという。そんな大西さんが一番うれしいのは、最近、一般の視聴者から様々な意見がよせられるようになったことだそう。

これからは、自分でも好きだという「社会派ドラマ」、そして、それとは対極にある「完全な娯楽」に挑戦してみたいという大西さん。

これからもどんどんと素晴らしい作品を私達に見せていただきたいものだ。



がんばれ！オリックス

オリックス・ブルーウェーブ後援会（奥村輝之会長）は、一昨年4月に発足しました。同後援会は、野球を通じてスポーツの振興を図る一方、文化活動も展開していく予定です。今回のイベントを第一弾として、今後も市民やファンの皆様楽しんでいただける催しを企画していきたいと考えております。



音楽祭と 横山由紀子染織展

オリックス・ブルーウェーブ後援会と神戸市公園緑化協会が22日から布引ハーブ園にある「森のホール」で音楽祭を行ないます。又、併せて「横山由紀子 染織展」も開きます。

●日程

平成4年5月22日(金)
「中西あかね作曲の夕べ」
入場料 2000円
18時30分～

平成4年5月24日(日)
「河村さと子ソプラノリサイタル」
入場料 2500円
18時30分～

平成4年5月31日(日)
「秋満義孝ジャズコンサート」
入場料 無料
14時～

スポーツ講演会

さらに市民のスポーツに関する知識を高め、より楽しくスポーツに親しんでいただくため、スポーツ各界の専門家による講演会を開催します。

- 日時 平成4年6月6日(土)
14時～15時30分
- 会場 兵庫私学会館4F大ホール
神戸市北長狭通4-3-13
(078)331-6623
- 講師 関西学院理事長 武田建氏
(同大学アメリカンフットボール部総監督)
- テーマ 『コーチングと子どもの心理』
- 対象 各種スポーツの指導者、
一般市民（約200名程度）

『プロ野球観戦会』 参加者募集

- 日時 平成4年6月16日(火)
17日(水)※雨天中止
18時試合開始
- 場所 グリーンスタジアム神戸
内野自由席
- 人数 両日とも抽選でベア 500
組1000名
- 参加費 大人 1500円
小・中学生 1000円
- 申込 往復ハガキにて
希望日、住所、年齢、性別、
電話番号をご記入のうえ、
『神戸市須磨区緑台神戸
総合運動公園プロ野球観
戦会』まで
- 申込締切 平成4年6月5日
消印有効

〈お問合わせ〉 神戸総合運動公園経営本部
☎(078)795-5151

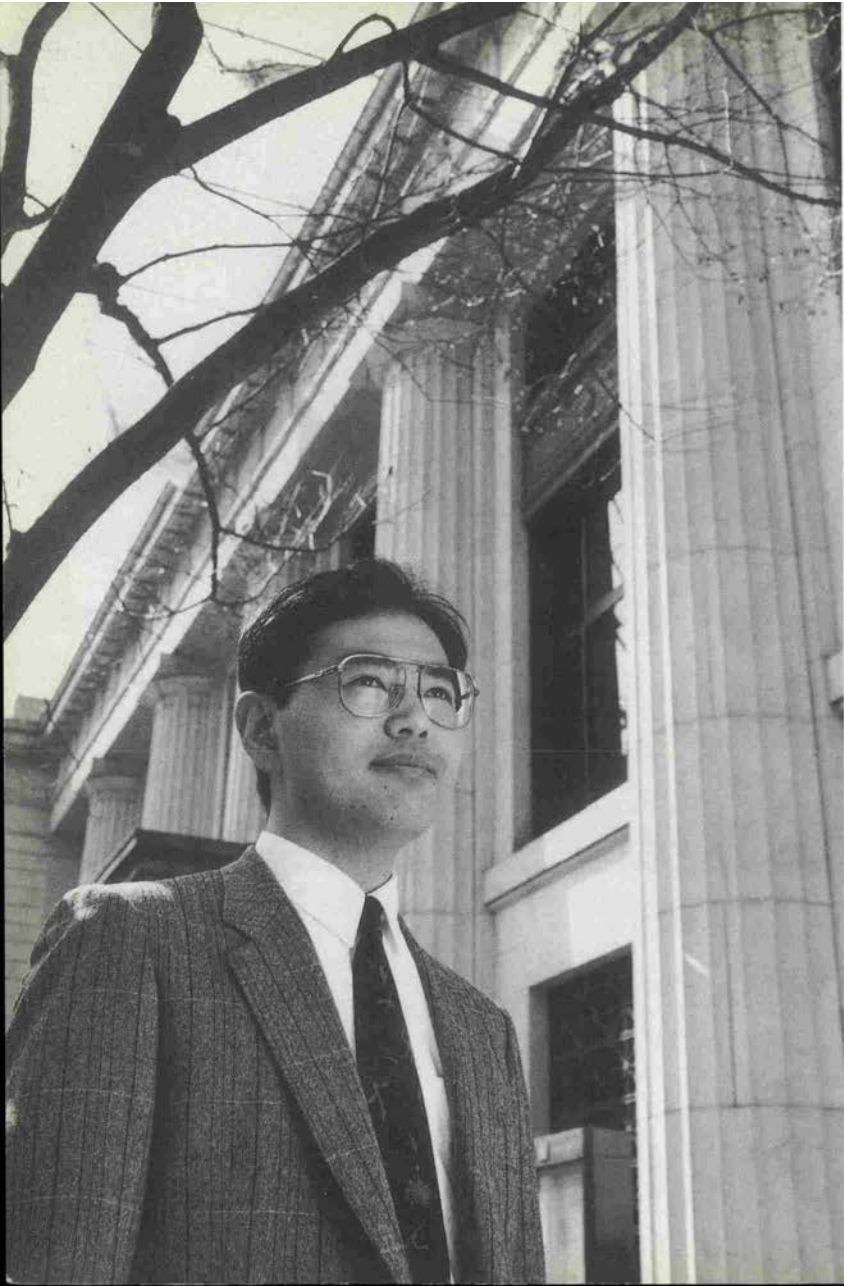
子どものための博物館を

—— 三木美裕

〈学芸員兼
エデュケイター〉

カメラ 松原卓也

生粋の神戸っ子である三木美裕さんは現在、アメリカにあるボストン子ども博物館の学芸員兼エデュケイターとして活躍中だ。「5〜7歳ぐらいの子どもが初めて出会う博物館です。入口のところも巨大なジャングルジムになっていて、2階、3階へ続いているので、子どもは大喜びで駆けていきます。インディアンの人たちの昔と今の生活を再現してある部屋、シャボン玉を作る様々な機械、買い物ごっこができるようになった子ども用スーパ―、ブロックがいっぱい置いてある部屋、コンピュータ、物理の球体実験室、子どもが遊べるように作られた自動車整備工場、雑誌の編集が体験できるコーナー、異文化を体験できるように日本の京都の家がまるごと……など、歴史・芸術・デザイン・音楽・民族などの幅広い分野で子どもが自由に遊びながら学べるようになっていきます。デイズニールランドかと思えるぐらいの楽しさで、帰ろうという泣き出す子どももいるくらいです」大学では中国美術史を専攻。卒業後、同博物館の館長を勤めていた、育児書で有名なスポック博士の息子、マイケルスポック氏のインタビュー記事がボストン行きのおきかけとなった。「大好きな美術を媒介として人が集まってくるような仕事があったのです」夢は日本の子ども達にも自分で何かを見つけ出す喜びを知ってもらおう場を作ることだ。夢の実現に向けてアメリカでの勉強は続く。昭和35年生まれ。甲南大学卒業。



エコーほいくピア・10年の歩みを歌う



ある集い ■ エコーほいくピア

ハーモニーを 保育の糧に…

神戸市内の私立保育園に勤務する、歌うことが大好きな私たち、それがコーラスグループ「エコーほいくピア」です。1981年、神戸で開催された全国私立保育園研究大会のオープニングを飾るために編成されたコーラス隊が、今日まで活動し続けてきました。2年に一度の定期演奏会、市社会福祉大会、福祉関係のボランテイア出演など、頼まれれば断る術も知らないで引き受けてしまい、活動分野は広がる一方です。

昨年11月には、晴れがましくも文化ホールで「10年の歩みを歌う」記念コンサートを開き、部員一同大感激。歌うことを通して、多くの方々の暖かい心につれ、支えていただき、私たちはここまで歩んでくることができたと感謝しています。

はや、次の目標―海外でのジョイントコンサート(?!?)に向けて夢ふくらませている私たちが、指揮者の阿部恩先生(頌栄短大助教授)は、身の程知らずなやつと呆れ返っていることでしょう。月2回のレッスン日こそ、保育仲間として心を通い合わせ、歌うことで励まし合い、ハーモニーを保育の糧とするよろこびの場であると部員一同確信しています。

■連絡先

聖ミカエル保育園
神戸市中央区中山手通6-5-1
(078) 341-8167



ある集い■神戸JC女組の会

女の時代だよ？
全員集合！
大島智恵
株式会社ベニ毛皮店取締役

昨年無事神戸JCを卒業した私の為にJCの女組が開いてくれたパーティーがこの写真である。女組という名の通り女性会員のみの組織だが、私の場合、男が居なれりや淋しいかろうという事で、親しいが、JCという男社会の縮図のような会のメンバーである彼らが、主役の私そっちのけで他の女性メンバーと話がはずんだのは言う迄もない。女の時代といくら言われても社会で活躍している女性の数はまだ少ない。一人々で充分にがんばっているのだが、いかんせん女性同志のネットワークがまだ出来ていないのである。神戸青年会議所も500名になるうかという大所帯で女性メンバーがやっと30名程度。女性の場合人生における先輩の引き立てが非常に少ないので、個々ががんばるしかないのである。と言うのもすでに活躍している女性は皆、自分の実力でここまで来たので、先輩後輩のネットワークもまだ出来ていないのである。JC時代は何かと親切に指導してくれた先輩達に感謝でいっぱいだが、女組もそんな会になってくれたらと願っている。何と言っても神戸を代表する事業家打問先輩をはじめ、医師、弁護士、会社のオーナー、フリーで活躍する人、皆その道の実力者なのだから。それがおんな組である。

Beautiful
eye

わたしとメガネ

★

寺田晴彦

(日本銀行神戸支店長)



寺田晴彦

眼鏡

さ
り
げ
な
い
神
戸

服部メガネ

神戸・大丸前

☎(078)331-1123

ライオンズクラブ国際協会 335-A地区第38回年次大会



永田ガバナー夫妻

大会キーの伝達

笹山市長の挨拶

ライオンズクラブ国際協会335-A地区・第38回年次大会が、4月12日、ポートアイランドのワールド記念ホールで開催された。永田ガバナー夫妻から沢ガバナーエレクト夫妻への交歓、大会キーの伝達などが行われ、フィナーレでは紙飛行機が舞うなど華やかに会場を彩った。

●コウベスナップ

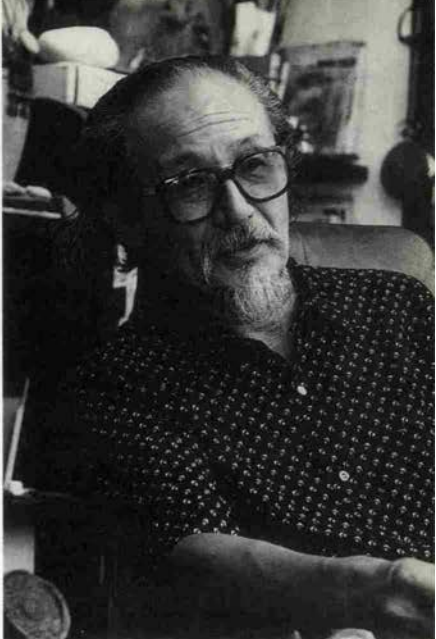


▲海賊たちも加わって
◀選手たちを送り出す土井監督とネッピー君

オリックス・ブルーウェーブ オープニングセレモニー



4月11日、オリックス・ブルーウェーブが本拠地で開幕を迎えた。試合前のセレモニーでは、マスコットのネッピー君に海賊たちが加わり、グラウンドでダンスを繰り広げた。ファンの代表二人による可愛らしい二人並んで始球式が行われ、スタンドから拍手が贈られた。



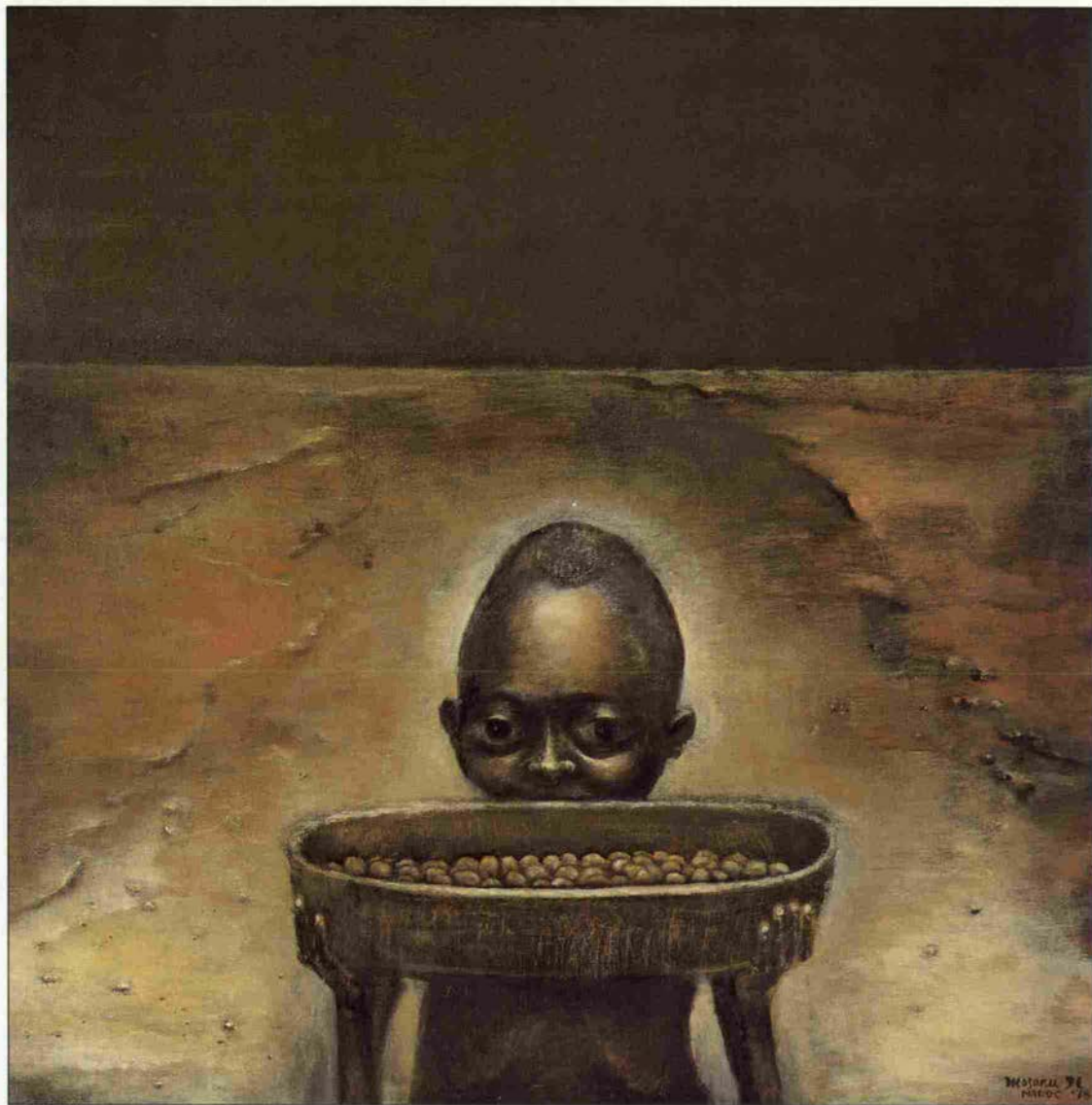
ART KOBÉ

中西 勝

「私は何處へ」自選展によせて

今想えば私の芸術思考の内には、幼い頃の体験が大きな比重になっているようである。ドロンコになって日の暮れる迄遊びまくった昔の事がよみがえる。私はコマやビー玉・メンコ等を宝物の様に大事に大事にしていたし、駄菓子屋さんの品々も、幼児の私に取っては心のこもった、まさに芸術品であったものだ。

美術学校にはいつて間もなく、『人を殺し合う』という戦争にまきこまれて外地に送り込まれた。苛烈・悲惨な日々が続く内に戦いは終わった。引揚げてたどり着いた我が街は、さびれ破壊され、ささくれだった人々がうごめいているようにおもえた。私の体重は四一籽にも満たず細って干からびていた。心身ともにハングリーであった頃にはバラック建の食い物屋に掛かっていた、チビクレタ絵を見つけて、ホット暖かいものを感じた事等を想い出す。絵というものは私にとってのエネルギー源であるようだ。『芸術とは熱烈なる告白である』との先人の言葉に触発されて私の芸術活動は廢墟からの始まりとなったのです。今後の自選展の準備の為には多くの方々の心のこもったお傳を願ひ、過ぎし日の想い出の多い数々の作品に再会出来た事は、今の私にとって大変めぐまれた、うるわしい機会となり有難いことであります。大地・人間・花・星・月と云うようなタイトルは私の画歴の流れとも云えるでしょうが、なんと云つても、四十一歳より四十五歳迄の間の妻の運転による「世界の旅」は、多くの者や事、人の心との出会いが重なって、私の創造のエネルギーを大きくゆさぶり動かし続けているようです。当時旅による作品展とともに旅の五年間を収録した「私は外へ出て見た」と云うタイトルの画集を出したが、この度の神戸・北野ホワイトハウスで3月26日(木)から6月23日(火)まで開催される展覧会を機に、再び内に入って考える事になるのではと思つて居ります。



「黒い器」1976年 162.0×162.0油彩/キャンバス